

平成23年度教員評価結果のまとめ

1. はじめに

本学は、平成14年度に教員の研究活動に関する予備調査を実施し、平成15年度には「大学評価・学位授与機構」が試行評価の際に用いた指標に準拠して教員評価を行うとともに、得られた結果を学内公表することで、教員評価制度の定着と醸成に努めてきた。

このような経過を踏まえ、平成16年には、本学教員の教育研究活動等を包括的かつ定量的に把握する中で、教員個々人の継続的な自己改善に役立て、本学自体の活性化にもつなげる目的で、大学評価委員会・教員評価専門部会を設置し、本学独自の教員評価データベースを構築すると同時に、具体的な教員評価項目や評価基準、及びその実施細目も定めた。その上で平成17年度からは、上記評価項目・基準等に基づいて個々の教員のその前年度における教育研究活動実績を数値化して定量的に評価し、平成23年度には、評価項目の内容や総合評価方式等に改善を加え、更に充実した評価制度を構築した。その結果は、各教員への教育研究費の次年度配分のみならず、賞与等の待遇面にも反映させている。

なお、得られた教員評価結果の大要は、平成18年度からは学内のみならず学外にも公表することとしているので、平成23年度分の評価結果の概要をここに「まとめ」として公表するものである。これまでの評価結果については、既に本学ホームページ上に情報公開済みであるので、必要に応じて参照されたい。

http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/outline/pubdoc/kyoin_hyoka/kyoin_hyoka.html

また、以降の本文中に記されている「年度」とは、「評価対象とした年度」を指すこととしているので、留意されたい。

2. 評価結果

2. 1 全学的評価

本学の教員評価制度は、(1)教員の教育活動 E (授業負担, 学生指導), (2)研究活動 R (過去 10 年間研究業績, 最近 2 年間研究業績, 外部資金), (3)大学運営に関連する学務貢献 U 並びに(4)社会貢献及びその他 S の 4 分野に大別して設計されており、これら 4 分野における目標値に対する達成度を用いて総合評価点を算出し、各教員の評価を行っている。

以下に教員評価結果の内容を説明する。

表 1 は、平成 22 年度と平成 23 年度における評価項目別評価点及び総合評価点について、全体の平均値を示した表である。なお、評価項目別評価点については、目標値に達した場合に 1.0 となるように設計されている。

平成 23 年度は評価項目や目標値等について見直しを行っているため、平成 22 年度の評価結果

と単純に比較はできないが、教育分野 E（授業負担，学生指導）及び研究分野 R 中 2 項目（過去 10 年間研究業績，最近 2 年間研究業績）については，平成 22 年度に比べ数値は上昇しており，引き続き目標値を上回る水準を示している。

なお，学務貢献 U 及び社会貢献 S については，昨年度までの評価項目「大学活性化及び社会貢献 A」を見直した項目であり，数値上の比較はできない。総合評価点については，前年度に比べ数値は上昇している。

表 1 評価項目別評価点及び総合評価点

年度	教育分野 E		研究分野 R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去 10 年間 研究業績	最近 2 年間 研究業績	外部資金			
H22	1.042	1.054	1.307	1.458	1.149	0.977		103.42
H23	1.117	1.270	1.584	1.836	0.957	0.794	0.707	125.87

2. 2 学科別評価

表 2 は，平成 23 年度における各教員の総合評価点を学科別に集計し，その平均値の平成 22 年度における同平均値に対する比率を示した表である。

表 1 と同様，年度間での単純比較はできないが，いずれの学科も前年度に比べ，比率は 1 以上であり，前年度より上昇していることがわかる。

表 2 学科別総合評価点の推移

年度	機械工学科	社会環境 工学科	電気電子 工学科	情報システム 工学科	バイオ環境化 学科	マテリアル 工学科	共通講座
H22	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)
H23	1.100	1.313	1.139	1.299	1.202	1.062	1.632

2. 3 職層別評価

表 3 は，平成 22 年度と平成 23 年度における評価項目別評価点及び総合評価について，職層別に集計し，その平均値を示した表である。なお，評価項目別評価点については，表 1 と同様，目標値に達した場合に 1.0 となるように設計されている。

表 3(a)に示す教授の場合、教育分野 E 及び研究分野 R とともに、目標値 1.0 を大きく上回る水準を維持している。また、総合評価点についても数値は上昇している。

表 3 (b) に示す准教授・講師の場合、教育分野 E 及び研究分野 R のうち「外部資金」以外の項目が目標値 1.0 を上回っている。また、総合評価点についても、教授の場合と同様、数値は上昇している。

なお、学務貢献 U 及び社会貢献 S については、表 1 の場合と同様、数値上の比較はできない。

表 3 職層別評価点

(a) 教授

年度	教育分野 E		研究分野 R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去 10 年間 研究業績	最近 2 年間 研究業績	外部資金			
H22	1.247	1.722	2.036	2.076	1.459	1.722		141.59
H23	1.286	2.032	2.479	2.495	1.200	0.986	1.050	169.62

(b) 准教授・講師

年度	教育分野 E		研究分野 R			学務貢献 U	社会貢献 S	総合 評価点
	授業負担	学生指導	過去 10 年間 研究業績	最近 2 年間 研究業績	外部資金			
H22	1.205	0.950	0.982	1.101	1.131	0.816		93.01
H23	1.275	1.037	1.100	1.517	0.893	0.861	0.644	113.61

3. まとめ

本学の教員評価制度は、達成度評価方式を取り入れた本学独自の特徴ある方式であり、平成 16 年度に実施を開始して以来、丸 8 年を経過した。

これまでの検討を踏まえ、平成 23 年度からは教員評価制度の意義と趣旨を活かしながらも、より簡素で効率的な新しい評価制度を実施すべく、評価項目や目標値等について大きな見直しを行った。そのため、これまでの評価点と今回の評価点について単純比較はできないが、直近の平成 22 年度と比べると、評価点はおおむね向上している。これは本評価制度を導入したことが一つの契機となって個々の教員が教育活動、研究活動、学務貢献、社会貢献に努めてきた結果である。

この評価制度を導入することによって本学の活性化につなげようとの本来の意図は、有効に機能してきたと自己評価できる。

今後もこれまで同様、公明・公正で、透明・明瞭な評価を行うべく教員評価制度の更なる充実を目指すものである。